

日本油化学会賞等

受賞候補者の推薦を募集します

第 61 回日本油化学会賞等令和 8 (2026) 年度 受賞候補者をご推薦ください。

- 1 賞の対象：**油化学及びこれに関連する学問、技術に著しい貢献のあった者としてします。
- 2 賞の種類：**学会賞等の種類はつぎのいずれかに該当するものとします。工業技術賞については、広く優秀な研究成果を対象とするために、応募資格「会誌に関連論文(報文、ノート及び速報)を1篇以上発表している」を改め、「学術誌に査読付きの関連論文(報文、ノート及び速報)を1篇以上」とし、Journal of Oleo Science 以外に発表した優秀な論文についても審査することとしました(第 463 回理事会決議)。
 - (1) 学会賞**

油化学または油化学工業に顕著な貢献のあった研究成果で、会誌に原著論文を5縁篇以上発表していること。ただし、推薦締切日現在において印刷中の論文を含むことはさしつかえない。副賞 10 万円。
 - (2) 工業技術賞**

油化学工業において顕著な技術的成果をあげた研究又は発明を行った者に対して与える。受賞者は2名以上よりなる共同研究者であってもさしつかえない。特許出願・特許成立の有無並びに工業化実績を選考の重要な判断材料とする。ただし、学術誌に査読付きの関連論文を1篇以上発表していることとする。副賞 5 万円。
 - (3) 進歩賞**

優秀な研究成果を会誌に原著論文として発表し、本年 2026 年 4 月 1 日現在において満 40 才に達していない者。なお、その研究成果は未完成のものであってもよい。副賞 5 万円。
- 3 受賞資格：**
 - (1) 学会賞については、本会正会員であること。
 - (2) 工業技術賞については、本会正会員または法人会員の所属者であること。

ただし、本会会員以外の共同研究者を含むことはさしつかえない。
 - (3) 進歩賞については、本会正会員または学生会員であること。
- 4 推薦・自薦の方法：**本会の正会員及び法人会員からの推薦または自薦を、別に定める様式によって行う。詳細は本会事務局長へ確認ください。

〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-13-11 油脂工業会館内
公益社団法人 日本油化学会
Tel: 03-3271-7463 Fax: 03-3271-7464
E-mail: y-kaneko@jocs.jp
- 5 推薦締切：**2026 年 8 月 31 日
- 6 賞の内容：**賞記・賞牌と副賞
- 7 受賞の表彰：**第 72 回定時総会 (2027 年 4 月予定)
- 8 その他：**各賞の受賞者は、本会年会において受賞対象の内容を講演し、かつ、会誌に投稿すること。

昨年度の受賞者をご紹介します。本年 9 月に広島大学で開催する、第 64 回日本油化学会年会で受賞講演をしていただく予定です。

(1) 学会賞

過酸化脂質の異性体解析：脂質酸化の全貌解明と最適制御を目指して

仲川 清隆 氏 (東北大学)

<授与理由>

本研究は、長年の難題であった脂質酸化の複雑な機構を「異性体レベル」で解明した、極めて独創性の高い業績です。

評価のポイントは、測定系へのナトリウム添加という独自のブレイクスルーにより、これまで困難だった酸化部位の特定を精密化した分析技術の確立にあります。これにより「脂質がどのように酸化されたか」の視覚化に成功しました。さらに、膨大な生成経路を体系化・マップ化した点は、油化学の理論構築において群を抜いて優秀と言えます。

その知見を基に「酸化の最適制御」という実用的解決策を提示したことは、食の安全や疾病予防への波及効果も大きく、学会賞に相応しい卓越した成果であると高く評価しました。



(2) 工業技術賞

該当なし

(3) 進歩賞

高含気かつ安定なオレオフォームの創製

松尾 一貴 (プレミアムアンチエイジング株式会社)

<授与理由>

本研究は、不安定さゆえに冷蔵保管が必須だった「オレオフォーム」を、常温で可能にする成果です。

従来、油脂の泡は気泡の粗大化やオイル漏れが避けられず、実用化が困難でしたが、特定の油脂 (トリベヘノイルグリセロール) に独自の温度制御 (急冷と昇温) を施す技術を開発しました。これにより、結晶が泡を包み込む安定化効果を油脂系で実現し、界面活性剤や水を使わずに、20°Cで30日間の安定保存と従来比 1.5 倍の含気率 300%を初めて両立させました。

この「脱冷蔵」を可能にする技術は、物流のエネルギー削減に直結し、また、低刺激な化粧品や低カロリー食品の創製を加速させ、持続可能な社会の実現に大きく貢献すると可能性を持つと考え、進歩賞を授与することとしました。

